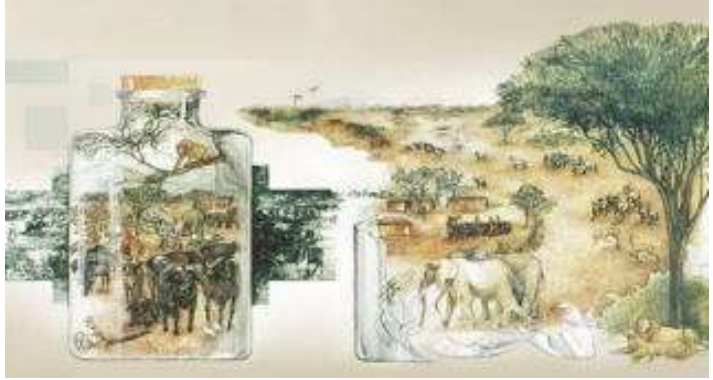
日本生態学会　第27回公開講演会
日時: 2024年3月20日(水)　13：00−15：30
場所：横浜国立大学経済学部講義棟2号館(ハイブリッド)



人と自然の古くて新しい関係

趣旨説明(ver.1)

松田裕之
大会実行委員会
横浜国立大学総合学術高等研究院（IMS）
ユネスコチェア「生物圏保存地域を活用した持続可能な社会のための教育」（EBRoSS）

人と自然の古くて新しい関係

- 原生自然だけでなく、人を含めた自然を守る
- 都市の自然も重視される
- 人口縮小時代において、鳥獣被害は深刻化
- 人と野生動物の「新たな関係」を迫られる
- 国際社会における議論
- 野生動物管理の課題と展望
- 持続可能な開発のための教育（ESD）
- 参加者の皆さんと一緒に「人と自然の関係」を見つめ直す

原生自然だけでなく、人を含めた自然を守る

Dasgupta報告書（概要版）の結論

「正しい経済学的理由付けは、私たち人間の価値観と絡み合っています。生物多様性は、道具としての価値のみならず、内在的な価値をもち、おそらくは道徳的価値さえあるかもしれません。いずれの価値も、私たちが自然の中に埋め込まれている(embedded)と認識したときに、さらに豊かなものになります。自然を経済学的な理由付けから切り離すことは、私たち人間が自然の外部にいると考えていることを意味しています。そのような誤りは経済学そのものにあるのではなく、経済学を適用した私たちのやり方が間違っているのです。」(P. Dasgupta, 2021）。

都市の自然も重視される

世界の自然保護思想が
むしろ
日本に近づいている

和訳　https://www.wwf.or.jp/activities/data/20210630biodiversity01.pdf　P75

https://www.gotquestions.org/Japanese/Japanese-dominion-over-animals.htm

An origin of Western stewardship

ミケランジェロ (1508–12) 「システィーナ礼拝堂天井画」（太陽・月・植物の創造）
Michelangelo (1508-12), from "Sistine Chapel Ceiling" (Creation of the Sun, Moon, and Plants)

旧約聖書創世記：神は彼らを祝福して言われた、「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。 海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配(dominion over)せよ」。

- 神を代表して動物を支配する権利を人間に与えた。（創世記1:26）
- 人間はこの世界の支配者として立てられた。
- 支配をする権威と共に、上手に支配する責任が伴う。（ローマ13:1-5）
- “従わせるsubdue”には、「耕作する、栽培する」という意味もある。支配権が人間に与えられた時、人間は肉食を禁じられた（創世記1:29）
- 肉を食べるようになるのは大洪水の後（創世記9:1-3）。動物が人間を恐れるようになったのはそのときから。
- 私たちには動物を思いやりをもって扱う責任がある。
- キリストの御国で狼が子羊と共に横になる時（イザヤ11:6）が来るまで、私たちは、地を賢く管理するという義務を果たさなければならない

人口縮小時代において、鳥獣被害は深刻化

北海道のヒグマも個体数調整を考えるべきだ - 松田裕之 | 論座 - 朝日新聞社の言論サイト

論座 RONZA　科学・環境

北海道のヒグマも個体数調整を考えるべきだ

札幌の市街地にまで出没、まずはもっと科学的調査と検討を

松田裕之　横浜国立大学大学院環境情報研究院教授、Pew海洋保全フェロー

2019年08月02日

図1　札幌市南区のヒグマ出没情報より。黒は目撃、赤は親子連れの目撃、オレンジは足跡発見。地下鉄真駒内駅付近を含む、森に隣接する市街地での出没が常態化している。
札幌市南区ヒグマ出没情報

札幌市の市街地でヒグマがしばしば出没している（図1）。2015年に知床世界遺産地域のヒグマの人慣れ問題を紹介したが、もはや国立公園だけでなく、政令指定都市でさえもクマ問題が深刻化している。環境省、北海道、札幌市の行政とクマ学者の対応が後手に回っていると言わざるを得ない。

- クマの個体数調整を考えるべき（松田2019/9論座）
- 2023年に被害拡大

札幌市街地で4人がクマに襲われた事故から2年 生活圏への出没が相次ぐ…有効な対策は 画期的な最新研究も

事件・事故　社会　2023年6月16日19:30　友だち追加

人と野生動物の「新たな関係」を迫られる

WWFの活動　基礎情報　野生生物を守る　野生生物の違法取引対策

WWFが提唱する人と自然の新しい関係　ウィズ/ポストコロナ時代を見据えて

2020/06/05

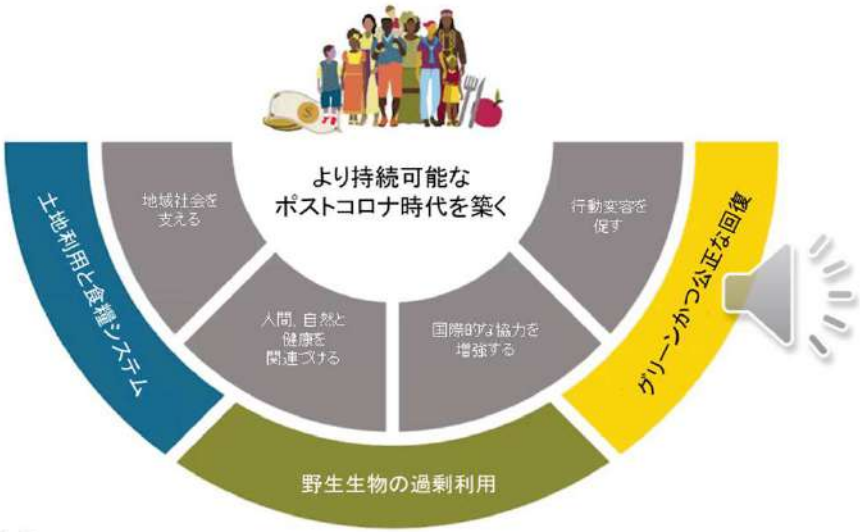
西洋以外ではむしろ伝統的な自然観

自然環境の破壊と感染症

ここ数十年、…新しい感染症が発生しています。その多くは野生生物からヒトに感染する「動物由来感染症」だと言われています。…新型コロナウイルスもそのひとつ…このような動物由来感染症拡大の背景には、世界各地で行なわれている野生生物の消費や取引や、地球温暖化、森林破壊など野生生物の生息環境の破壊による人間と野生生物の接触する機会が増え続けてきたことが原因の一つになっている…

感染の予防、拡大の抑止のステージ

•野生生物の違法取引を防ぐこと
•森林減少など自然環境破壊をくいとめること
•自然破壊の根本原因となる、貧困を撲滅に取り組む必要性を再認識すること



https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/4333.html
https://explore.panda.org/newdeal#what

- “2018年に岐阜県で、わが国では28年ぶりとなるCSF【豚熱】が発生し、イノシシに感染してしまった。28年前にはイノシシが平野部に生息する状況ではなかったこともあり、イノシシへの感染対策は【2018年には】準備すらできていなかった。【同じことはやがて他の途上国、先進国でも起きるだろう】
- “野生動物問題は、人間と野生動物がいる限り、未来永劫続くものであるという認識が政策決定者に欠けている。もう、頭を切り替えるべきだ
- “これらの現象【大型動物の市街地出没】は、「開発で山に餌がないから街へ出るようになった」と安易に解説するような事態ではない。
- “かつては都市にとって、農村地域は大型動物の防波堤のような存在であった。しかし、今では…動物たちは市街地へ容易に侵入できるようになったのである。こうして考えると、大型動物たちの市街地出没問題は、野生動物の問題ではなく、人間社会の問題といえる。

野生動物問題とはなにか

羽山伸一

持続可能な開発のための教育（ESD）

- 環境問題を、将来世代に引き継ぐ持続可能性すべての問題とともに考える。
- 現場に接し、自ら考え、打開策を提案する。
- 多様な意見を尊重する
- 生物多様性と文化多様性は表裏一体
- 地球規模で考え、地域で活動する。
- 緩和策は地球規模、適応策は地域の効果。

質問はメール hymatsuda@t09.itscom.net または Q&Aへ。アンケートは

- 宇野裕之（農工大）：鳥獣害管理の担い手を育てる
- 八代田千鶴（森林総研）：「野生生物と社会」学会の目指す新たな関係
- 朱宮丈晴（自然保護協会）：日本版ネーチャーポジティブアプローチをユネスコエコパークで展開する
- 古田尚也（大正大学）：自然保護区以外の普通の場所の自然保護　コメント　橋本禅（東京大学）
- 須藤明子（ｲｰｸﾞﾚｯﾄｵﾌｨｽ）：人と野生動物の共存に挑む
  コメント　中尾文子（環境省）・村田浩一（ズーラシア）
- 倉田薫子（横浜国大）：高校生から始める生物多様性
  コメント　安田昌則（大牟田市教委）
- 総合討論
- 終了後、学内散策をお試しください。